

C 次の文章を読んで、問題15～問題20に答えなさい。(配点50)

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

つどいつでも存在に関わりあっています。この意味で、存在はあらゆる事象のなかでもっとも

している」かのどちらかです。前者は存在の経験、後者は存在の概念です。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| A | A | A | A | A |
| 架 | 架 | 科 | 可 | 可 |
| | | | | |
| B | B | B | B | B |
| 霸 | 把 | 端 | 把 | 端 |
| | | | | |
| C | C | C | C | C |
| 観 | 換 | 卷 | 観 | 換 |

問題15 傍線部A～Cのカタカナを漢字に直した場合、正しい組合せとして、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点6)

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

問題16 傍線部ア「存在は何にでも当てはまる」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点10)

- ① 存在をそれだけ取り出して考えた場合に初めて存在が適用可能になること。
- ② 感覚的事物とフィクションとを厳格に区別して存在を適用可能なこと。
- ③ 果てしなく多くの種類のものについて、そうしたものがあると語られること。
- ④ 高度な物理学以外の自然科学が研究するのは、感覚的事物の存在であること。
- ⑤ 存在には根本意味があり、その根本意味だけがすべてに適用可能であること。

問題17 傍線部イ「これ」とあるが、それが指示するものの具体的な説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点10)

- ① どこにでも歩き出すことはできるが、自分の足の裏に向かって歩き出すことは、そもそも試行すら不可能だということ。
- ② 別の銀河や宇宙の境界に向かって歩き出すことはできても、そこにたどり着くことは不可能だということ。
- ③ 足の裏は誰にとってもいつでもそこにある最も自明な前提であり、それなしには歩くことが不可能だということ。
- ④ 二足歩行をするときは誰でも自分の足の裏の上に立つものであり、その足の裏を見ることは不可能だということ。
- ⑤ 他人の足の裏に向かって歩き出すことは、そうしたことを考えることすら不可能だということ。

問題18 空欄 I に入れるのに適当な語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点7)

- ① 孤立性
- ② 受動性
- ③ 能動性
- ④ 特殊性
- ⑤ 遍在性

問題 19

空欄

II

に入れるのに適当な語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点7)

- ① さらに
- ② だから
- ③ ところが
- ④ 一方で
- ⑤ ということも

問題 20

問題文の内容と合致するものとして、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点10)

- ① アリストテレスは、存在の意味を数種類に区別したうえで、それらのすべてに共通する「存在」の根本意味を検討し、そこで示された答えである「類比による統一」とは、実感によって受けとめられるものである。
- ② 存在は私たちが何を思考しようと、はじめに理解されるものだから、超越的な普遍性を持つという存在理解は、デカルト以降の近代哲学に道を開く重大なものである。
- ③ 超越範疇とは「存在」のようにあらゆるものに適用できる普遍的なものであるが、通常の一般概念が事象の内実に拘束されるのと違い、内実にかかわらずあらゆる事象に適用できるという点で概念とは言えない。
- ④ ドウンス・スコトウウスやフランシスコ・スアレスは経験でなく、私たちの思考における概念としての存在にそくし、超越範疇の適用において、適用される事象(存在)が実際にありと現れていなければならないと考えた。
- ⑤ 哲学の伝統において、「思いなし」と「真理」との二重性は「超越」の問題として考察され、日常の信念に囚われて、存在の真理からかけはなれることがないよう経験を超越することの重要性をアリストテレスは説いた。